

姉妹都市概要



金沢市・金沢市姉妹都市交流委員会

目 次

1. 姉妹都市提携について	1
2. 金沢市の7姉妹都市・1友好交流都市	2
3. バッファロー市との姉妹都市提携	4
1 バッファロー市の概要	4
2 提携の経過	7
4. イルクーツク市との姉妹都市提携	8
1 イルクーツク市の概要	8
2 提携の経過	10
5. ポルト・アレグレ市との姉妹都市提携	12
1 ポルト・アレグレ市の概要	12
2 提携の経過	14
6. ゲント市との姉妹都市提携	16
1 ゲント市の概要	16
2 提携の経過	18
7. ナンシー市との姉妹都市提携	20
1 ナンシー市の概要	20
2 提携の経過	22
8. 蘇州市との姉妹都市提携	24
1 蘇州市の概要	24
2 提携の経過	26
9. 全州市との姉妹都市提携	28
1 全州(ジョンジュ)市の概要	28
2 提携の経過	30
3 市議会間の交流	31
10. 大連市との友好交流都市提携	32
1 大連市の概要	32
2 提携の経過	34
11. 姉妹都市・友好交流都市では何て言うの?	35
12. 資 料	36

1. 姉妹都市提携について

1 目的と意義

姉妹都市提携とは、規模や性格の似ている二つの都市の市民が、歴史・文化・言語・風俗・政治体制等いろいろな差異を超えた友情によって固く結ばれ、文化や社会、経済の交流を通じて相互理解を深め、国際親善と世界平和に役立てようとするものです。しかもこの交流が、国際間の外交という形式を離れて、純粋に民間の運動として市民対市民－People to People－の精神に基づいて行われるところに、都市提携の基本的な意義があります。

我々の日常生活を支える石油、食糧、木材、鉱物資源等の多くを海外に依存しているように、我々の生活は、日々の国際関係や国際経済の動きと密接に結びつき、その将来は、平和を基調とする新しい国際主義に徹し、いずれの国とも経済、文化の相互協力に努めねばならない位置におかれています。

したがって、今やその平和外交を助けるためにも、国際姉妹都市の果たす役割は、一層重要性を加えています。

2 わが国の姉妹都市

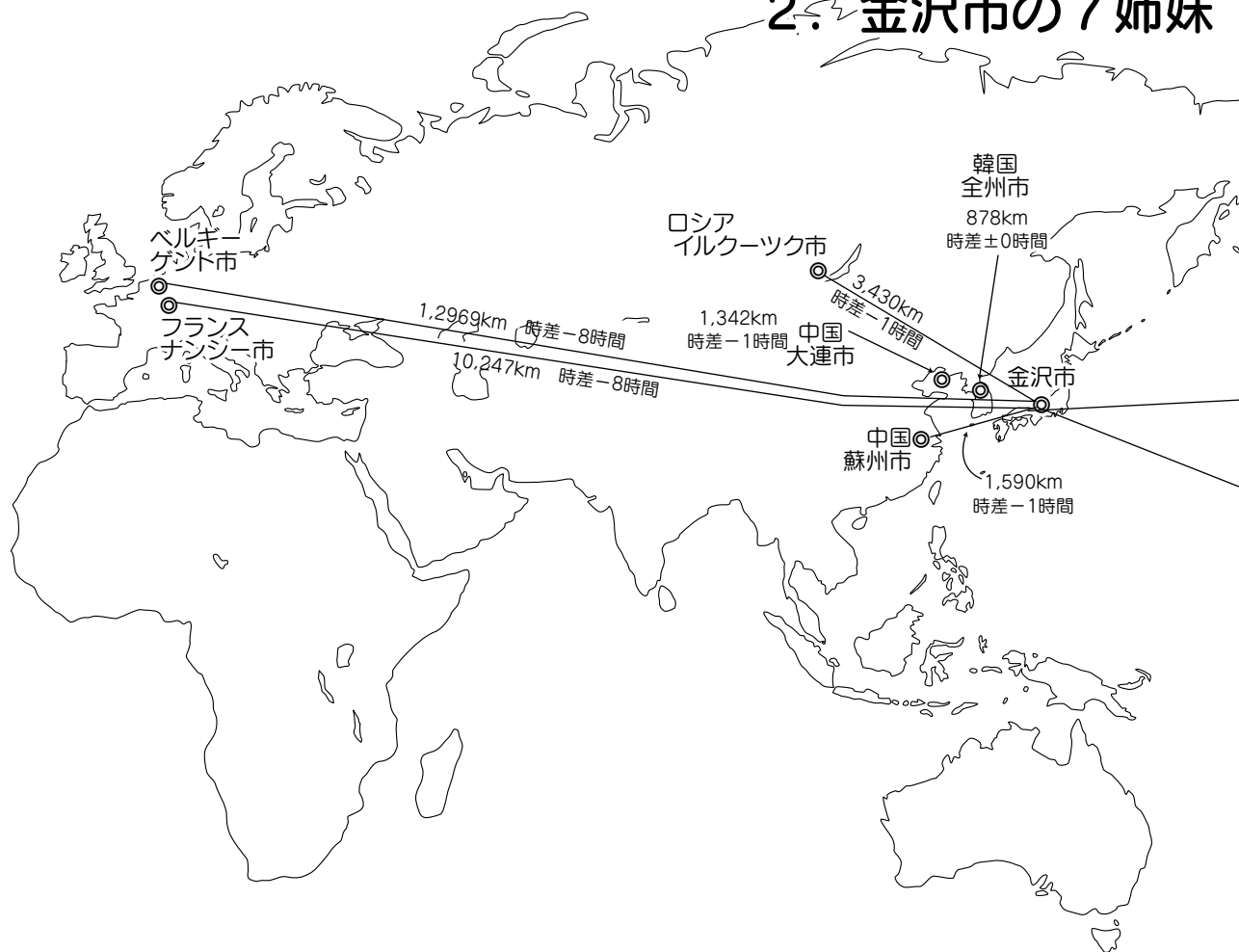
わが国では、昭和30年に長崎市と米国ミネソタ州セントポール市が最初の姉妹都市提携を結びました。それ以後、現在(2012年6月)までに世界各地の都市と姉妹提携を行った自治体は、546市、21区、209町、35村で、64か国・地域の都市と1,620件の姉妹提携を行っています。

これを国別に見ると、全体の約30%に当たる439件はアメリカ合衆国であり、次いで中国345件、韓国139件、オーストラリア109件、ブラジル57件、カナダ70件、フランス47件、ドイツ53件、ロシア連邦43件、ニュージーランド41件、オーストリア32件、イタリア36件、フィリピン18件などとなっています。

なお、1市で2以上の姉妹提携をしている都市は397市で、そのうち最も相手都市が多いのは京都市の9都市で、横浜・川崎・神戸・大阪の各8都市、金沢・仙台・千葉・福岡各7都市等となっています。



2. 金沢市の7姉妹



	都 市 名	国・州名
姉 妹 都 市	バッファロー市	米国 ニューヨーク州
	イルクーツク市	ロシア イルクーツク州
	ポルト・アレグレ市	ブラジル リオ・グランデ・ド・スル州
	ゲント市	ベルギー 東フランドル州
	ナンシー市	フランス ムールト・エ・モゼール県
	蘇州	中国 江蘇省
	全州(ジョンジュ)市	韓国 全羅北道
友好交流都市	大連市	中国 遼寧省
	金沢市	日本 石川県

都市・1 友好交流都市



提携年月日	人 口	面 積	市 長 名
1962年12月18日	26万人	105km ²	バイロン・W・ブラウン
1967年 3 月20日	60万人	280km ²	ドミトリー・V・ベルドニコフ
1967年 3 月20日	141万人	497km ²	ジョゼ・フォートゥナティ
1971年10月 4 日	25万人	156km ²	ダニエル・テルモント
1973年10月12日	10万人	15km ²	ロラン・エナール
1981年 6 月13日	653万人	8,488km ²	周 乃 翔
2002年 4 月30日	65万人	206km ²	金 承 洙
2006年11月24日	669万人	12,574km ²	肖 盛 峰
	45万人	468km ²	山 野 之 義

平成27年(2015年) 3月

3. バッファロー市との姉妹都市提携

1 バッファロー市の概要

(1) 沿革

バッファロー市は、アメリカ五大湖の一つエリー湖の東端に位置し、エリー郡庁舎の所在地であり、ニューヨーク州第2、全米では第58位(2000年現在)の都市です。別名"The Queen City of the Lakes"(五大湖の女王都市)や"The City of Good Neighbors"(人付き合いのよい都市)と呼ばれ、西部ニューヨーク州の政治、経済、教育、文化の中心地です。

ナイアガラ河を隔ててカナダと国境を接し、壮大な自然美を誇る有名なナイアガラの滝は、市の北僅か25キロの地点にあります。

バッファロー港は、エリー運河、セントローレンス運河の開通とともに世界の港となり、バッファローは、ナイアガラ河の電源開発計画による水力発電によって、重工業の中心地となりました。

バッファローの歴史は、1790年オランダ土地会

社がこの地方を購入した時に始まり、当初ニューアムステルダムと呼ばれていましたが、間もなく現在のバッファローに変わりました。しかし実際には、この地方には当時野牛は1頭もおらず、この地名の由来は、初めてナイアガラ河を見たフランス植民者が「ベル・フループ」(美しい流れ)と叫び、これをネイティブ・アメリカンの通訳が間違っ「ブーフロ」と発音したためといわれ、野牛にちなんだものではないというのが通説です。

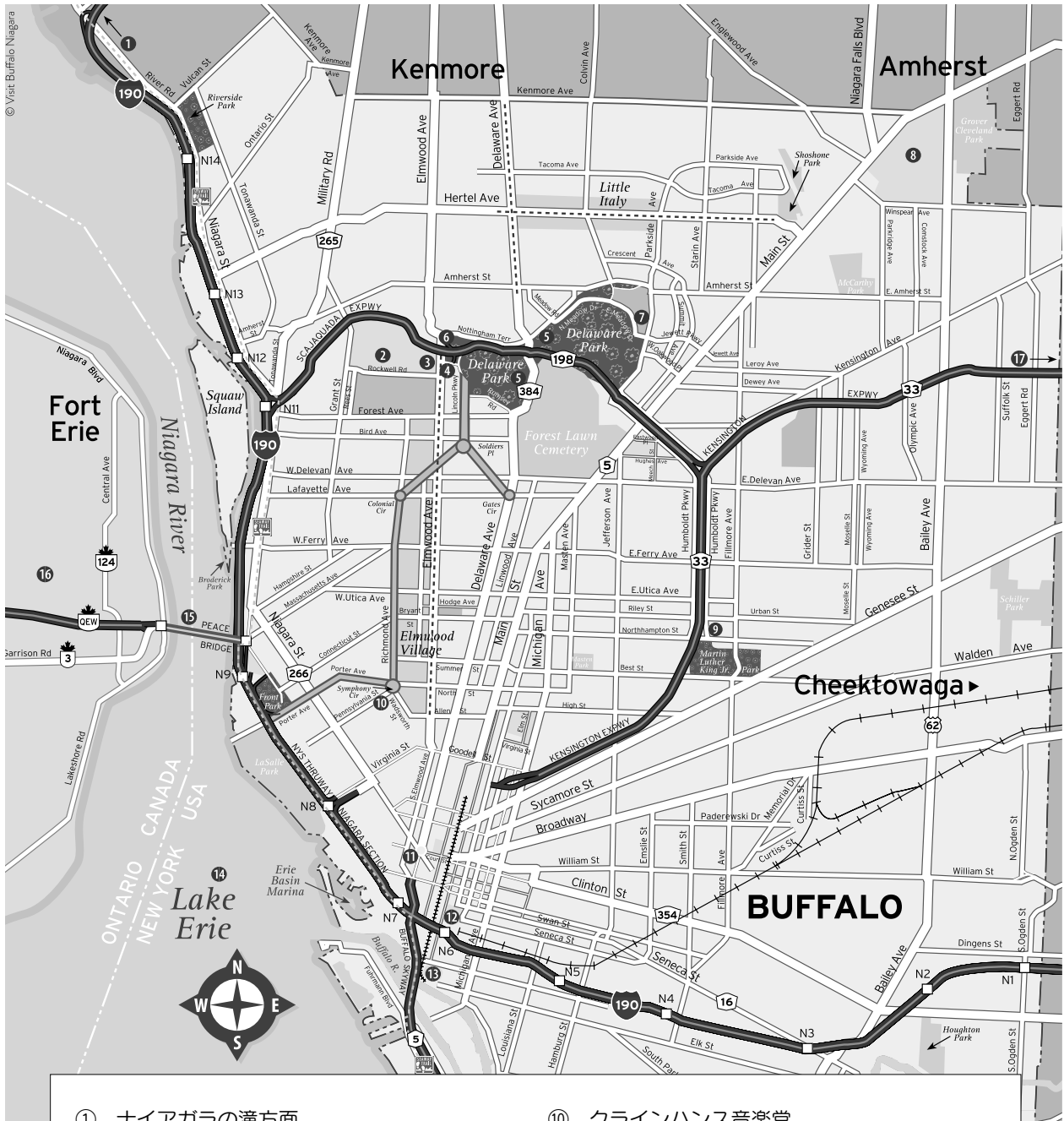
バッファローの初期の時代は、主にフランスの支配下であり、1804年には約20軒の家が建ち並び、1813年、町は米英戦争の戦火で焼き尽くされましたが、1820年には人口2千人に回復しました。

1825年エリー運河の開通によって、バッファローの通商、海運、産業の中心地としての地位が確立されました。1832年人口1万人のバッファローに市制がしかれ、1843年には世界最初の大穀物倉庫が建てられ、以後バッファローはアメリカ西部産出の穀物を東部に供給する一大給配地点に



市内からエリー湖を望む

バッファロー大都市圏略図



- | | |
|------------------------|--------------------|
| ① ナイアガラの滝方面 | ⑩ クラインハンス音楽堂 |
| ② バッファロー・ステート・カレッジ | ⑪ 市庁舎 |
| ③ パーチフィールド・ペニー・アートセンター | ⑫ コカ・コーラ・フィールド |
| ④ オルブライト・ノックス美術館 | ⑬ ファースト・ナイアガラ・センター |
| ⑤ デラウェア公園(ことじ灯籠) | ⑭ エリー湖 |
| ⑥ 歴史博物館 | ⑮ ピース・ブリッジ |
| ⑦ バッファロー動物園 | ⑯ カナダ・オンタリオ州 |
| ⑧ ニューヨーク州立大学バッファロー校 | ⑰ 空港方面 |
| ⑨ 自然科学博物館 | |

なりました。

(2) 産 業

バッファロー市は、水陸交通上の要衝で、その利点を生かし、古くから穀物の保管および加工基地として知られてきましたが、重工業も盛んであり、製鉄、化学工業、製粉等の分野で米国の中核都市の一つに数えられています。

現在は、自動車部品、化学、合金、食品加工、工業用機械、医療機器、印刷などの製品の生産地として有名です。

また、北に位置するナイアガラの滝は、年間1千五百万人以上もの観光客を引き寄せ、観光業も重要な産業の一つとなっています。

(3) 教 育

市内には、市立の小・中学校が約60校、高校が14校ありますが、その他に私立の小・中学校と高校が70校以上あります。市は「マグネット・スクール・システム」という特別な教育過程によって効果



バッファロー市庁舎

をあげています。

ニューヨーク州立大学バッファロー校は、市の北部にキャンパスを持ち、数あるニューヨークの州立大学の中でも最大の規模です。

(4) 文 化

1905年創立のオルブライト・ノックス美術館は、その美しい建物と貴重な現代美術と印象派のコレクションで世界的に有名で、1901年設立の歴史博物館、1929年設立の自然科学博物館も広く知られています。

またバッファロー・ステート・カレッジにあるバーチフィールド・ベニー・アートセンターはアメリカの誇る水彩画家チャールズ・バーチフィールド作品の豊富なコレクションで知られています。

市内のクラインハンス音楽堂を本拠とするバッファロー・フィルハーモニック交響楽団は、全米でも十指に入るオーケストラです。

そのほかにも、本館および20の分館からなるバッファロー・エリー郡公立図書館、40の主要施設からなるバッファロー動物園があり、市内外にはデラウェア公園をはじめ多くの市、郡、州立の公園があります。

バッファローは大変スポーツが盛んな地域であり、3つのプロスポーツチームがフランチャイズを置いています。17,000人収容のファースト・ナイアガラ・センターを本拠地とするナショナル・ホッケーリーグ所属の「バッファロー・セイバーズ」、21,000人収容のコカ・コーラ・フィールドを本拠地とする野球の3Aインターナショナルリーグ所属の「バッファロー・バイソンズ」、80,000人収容のラルフ・ウィルソン・スタジアムを本拠地とするナショナル・フットボールリーグ所属の「バッファロー・ビルズ」が市民の熱狂的な声援を受けています。



ナイアガラの滝

2 提携の経過

昭和36年9月、当時の土井金沢市長および武村市議会議長が米国オレゴン州ポートランド市で開催された日米市長会議に出席のため訪米した際、アメリカの都市のうち金沢市と姉妹関係を結ぶにふさわしい都市の一つを選ぶため、金沢市を紹介する写真、資料等を携行し、関係方面に打診しました。またバッファロー出身でワシントン在住の元金沢アメリカ文化センター館長ロバート・フラーシャム氏にも斡旋を依頼しました。

昭和37年4月フラーシャム氏の紹介で姉妹都市提携の仲介の依頼を受けた同市の弁護士ナザニエル・バレル氏から「バッファロー市チェスター・コワル市長から金沢市と姉妹関係を結ぶ可能性について予備的調査を実施する委員会の委員長に任命され、金沢市がバッファロー市と姉妹関係を結ぶことに関心を持つならばその斡旋をしたい」旨の通知があり、土井金沢市長から折り返し斡旋を依頼する旨の返信をしました。

同年12月7日バッファロー市コワル市長から電報により姉妹提携に参加勧誘の通知があり、同

月10日土井金沢市長から正式機関に諮った上で近く回答したい旨返電しました。

続いて12月12日、姉妹都市提携に関しバッファロー市コワル市長から「正式に委員会において金沢市と提携することを決定したので、金沢市においても考慮の上返事をいただきたい」旨の書簡が到着し、これに対し金沢市は早速関係機関と協議した結果

- ① バッファロー市が五大湖の女王都市(The Queen City of the Lakes)の別名のように品位ある都市で、州立大学バッファロー校をはじめ多くの教育施設、文化施設を有し、政治的に名門都市であって、金沢市の姉妹として共通した点が多いこと。
- ② 都市構造から見ても、エリー運河の開通とともに港湾工業都市として近代的な面を持ち、また反面においては公園も各所にあり樹木の多い静かな田園都市ともいわれており、古都金沢が産業都市へ脱皮しようとしている時期にあたり、適当と思われること。
- ③ 車で20分程の距離に世界の観光地ナイアガラの滝があり、観光地として著名であることは、景勝地をもつ金沢市と共通していること。

等の諸点から、両市の姉妹都市提携が極めて適切であるとの結論を得るに至りました。そして昭和37年12月18日金沢市議会において正式に両市の姉妹都市提携を議決し、両市姉妹都市の提携が始まりました。

なお、昭和50年5月、スタンレイ・マコウスキー市長が、バッファロー市長として初めて金沢市を訪問した際、金沢市役所において、両姉妹都市間で既に確立されている友好交流関係をさらに促進、強化することを確認した合意書が両市長によって交わされました。

4. イルクーツク市との姉妹都市提携

1 イルクーツク市の概要

(1) 沿 革

イルクーツク市は、シベリアの中心都市で、イルクーツク州の州都です。市民の余暇の中心地のバイカル湖は、世界遺産かつ世界最深の湖であり、日本ではロシア民謡でよく知られています。バイカル湖から流れ出る唯一の川、アンガラ川沿いに街はひろがり、その落ち着いた雰囲気から「シベリアのパリ」とも呼ばれています。また、ロシアの大動脈シベリア鉄道が通過しており、東シベリアの政治、産業、学術文化の中心です。

1652年、コサックの一隊が毛皮をとるために、アンガラ川在岸イルクート河口のディヤチ島上に住みついたのが、イルクーツク市の歴史の始まりです。1661年に現在のイルクーツク市の礎となる“イルクーツク要塞”が建てられました。その後、

バイカル、極東、中国方面への交易基地として、1686年に市制がしかれています。もともとモンゴル系民族の土地でしたが、現在は、ロシア人のほかにウクライナ人、ブリヤート人、タタール人など13以上の民族がイルクーツク州に住んでいます。

(2) 産 業

イルクーツク州の面積は、日本本土の2倍にも及び、約75%が密林(タイガ)地帯で森林資源に富んでいます。

地下資源は豊富で、その採取鉱業が進んでおり、それに伴って、工業も発展してきました。豊かな水資源を生かした水力発電も行われています。

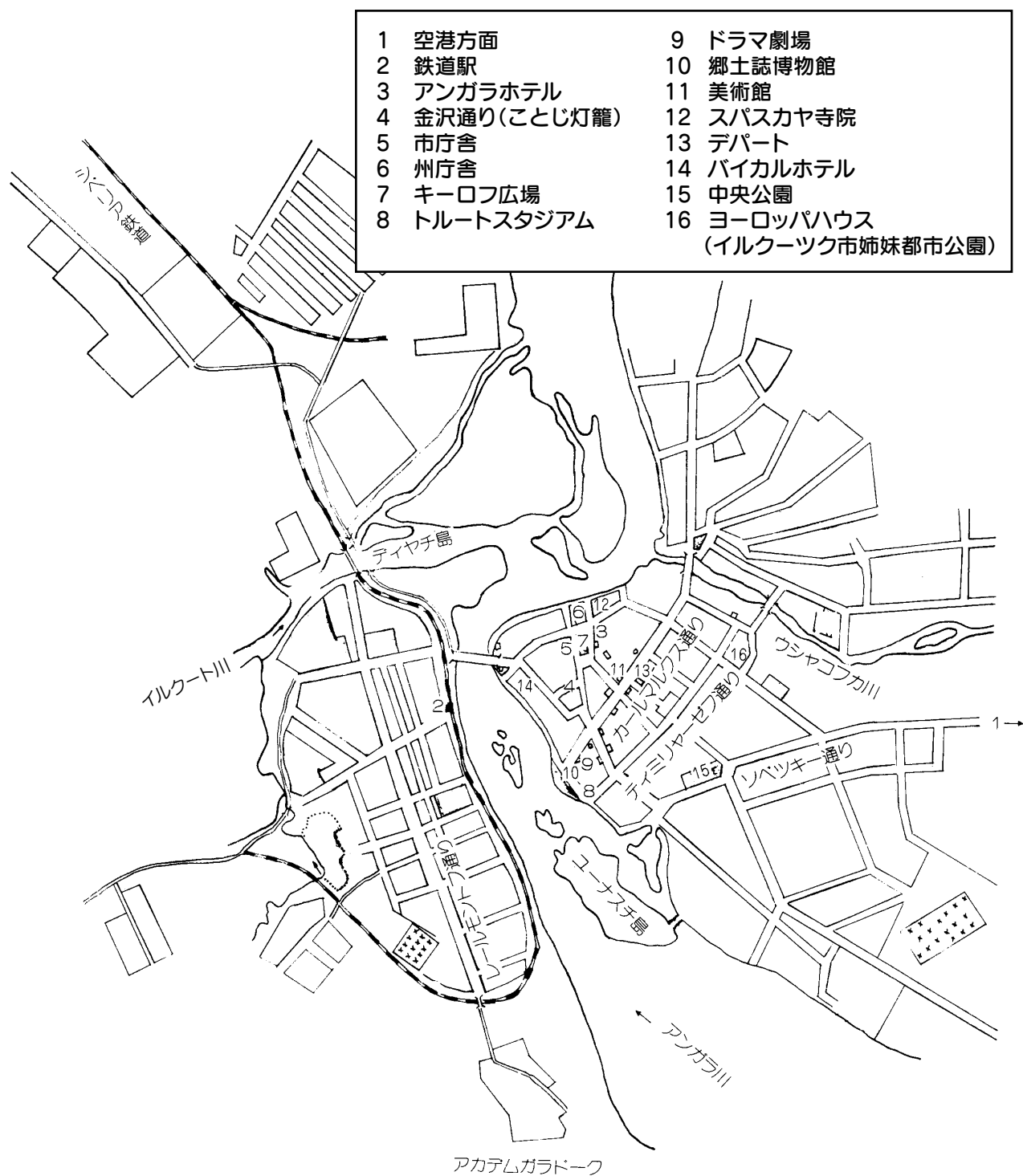
(3) 教育・科学

教育については、義務教育は9年間で、その後



カール・マルクス通りとレーニン通りが交差するイルクーツク市中心部

イルクーツク市内地図





世界遺産"バイカル湖"

に建築、地質、林業、体育などの専門学校で学ぶコースと大学進学を前提とする高等学校へ進むコースがあります。イルクーツクには総合大学のほか、医学、教育、工科、経済、外国語などの単科大学があり、インテリ層の厚い都市で、学生や学者の大変多い街です。

郷土誌博物館は、豊富な考古学人類学資料を保存し、バイカル湖周辺の動植物生息分布等自然に関しては、バイカル湖沼学研究所附属生態学博物館が幅広い資料を展示しています。郷土誌博物館では、シベリア東部に住むブリヤート人などの少数民族の昔の生活や文化を伺うことができ、特にシャーマン(宗教的指導者)のコレクションなどが珍しく見ることができます。また、木造建築博物館"タリツィ"では、18～19世紀の農民の生活を知ることができます。

2 提携の経過

昭和39年9月、日ソ協会石川県連合会鶴森理事長が北信五県町村会訪ソ視察団の一員として、ソ連ヨーロッパ視察の途次イルクーツク市を訪問し

たが、その時初めてサラツキー市長からイルクーツク市側が金沢市との姉妹提携を望んでいるとの申し出を受けました。

翌40年7月に、岡良一代議士(注)が欧米視察の途次モスクワでソ連対外文化交流委員会、ソ日協会等の関係者と会見し、金沢市とイルクーツク市の親善都市提携について懇談しました。その後、イルクーツク市を訪れてサラツキー市長に徳田市長のメッセージを手渡し、両市友好関係の促進について話し合いました。また同年8月には、中西石川県知事夫妻がヨーロッパ視察旅行の途中イルクーツク市に立ち寄り、サラツキー市長と会談し、両市間の理解と親善を深めました。

昭和41年6月、ハバロフスクで日本沿岸貿易見本市が開かれた際、石川県訪ソ経済視察団の市岡県経済部次長、川島県議会議員ら四氏がイルクーツク市を訪問し、川島県議からサラツキー市長に徳田市長から託された親善のメッセージを手渡し、両市の理解と友好をさらに深めました。続いて同年7月、日ソ協会石川県連合会長森茂喜氏を団長とする石川県町村訪ソ使節団一行6名が、さらに8月には金沢大学工学部岩名学部長を団長とする石川県シベリア工業技術視察団がイルクーツクを訪れた際、イルクーツク市長から金沢市と都市提



ヨーロッパハウス

携をしたいとの要望の伝言を受けてきました。

こうした両市の友好ムードのうちに、同年11月、徳田金沢市長は、在日ソ連大使館にロザノフ公使を訪問し、正現の外交ルートにのった提携協定に関してイルクーツク市長の意思を確かめてほしい、また、正式申し入れがあれば市として本格的に交渉を進めたい旨伝達し、イルクーツク市長からの公文書を要請しました。

これに対し昭和42年1月、イルクーツク市長から「できれば4月にも金沢市を訪問して提携協定に調印したい」との書簡が届き、金沢市では早速この書簡の写しをソ連大使館に送り、この件に関して大使館から公文書を金沢市に送付されるよう依頼しました。

この依頼に対し、同年2月ビノグラードフ駐日ソ連大使から徳田市長あてに「サラツキー市長書簡の内容に合意する。この書簡をもって両市友好関係樹立に関する申し入れを公式に通知する」旨の公文書が到着しました。

同年3月20日、金沢市議会は、正式に両市の親善都市提携を議決しました。これを受けてイルクーツク市側も手続きを経て7月18日正式に決



スパスカヤ寺院

定し、両市の提携が始まりました。

なお、昭和42年9月23日、イルクーツク州クラフチェンコ知事、イルクーツク市サラツキー市長およびチェカーショフ市議の3名が金沢市を公式訪問した際、金沢市役所において、両市長が両市の親善都市提携協定書に署名調印しました。



アンガラ川にかかる橋

5. ポルト・アレグレ市との姉妹都市提携

1 ポルト・アレグレ市の概要

(1) 沿革

ポルト・アレグレ市は、ブラジルの南部のリオグランデ・ド・スル州の州都で、政治、経済、軍事、文化の中心地として発展し、今日、南ブラジル最大の都市に成長しており、ブラジルの中でも、サンパウロ、リオの2大都市圏に次いで、ペロ・オリゾンテ、レシエフと並ぶメトロポリスです。

アゾレス諸島(ポルトガル)からの夫婦移民の60組が、ミッソソエス地方(リオ・グランデ・スール州北西部のアルゼンチンとの国境地帯)に入植する為に、ポルト・アレグレに、1752年に到着しました。しかし、当時のミッソエス地方は、インディオの反ポルトガル併合植民戦争が行われていたため、これらのアゾレス諸島からの夫婦移民は、そのままポルト・アレグレに入植しました。

このため、ポルト・アレグレは、当初「夫婦港」(Porto dos casais)と呼ばれ、当時、州都だっ

たピアモンの一地区に属していましたが、ジョゼ・マルセリーノ・デ・フィーグレード知事によって、Port-Alegre(愉快的港)市とし、リオ・グランデ・ド・スル州の州都に定められ、現在に至っています。

1824年にドイツ人移民、1874年イタリア人移民、その他スペイン人、アフリカ人、ポーランド人などが移住し、人種的には西欧的色彩が濃いことが、ブラジルの他の地域と顕著に異なる点です。

現在約140万人の人口を誇るポルト・アレグレ市は、様々な表情、多様な顔、民族、宗教と言語がモザイク状に混在する国際都市として発展しています。

(2) 産業・交通

ポルト・アレグレ市は、国内や外国の大手企業の拠点であり、他のブラジルの地域と比較しても所得水準が高く、工業は食品、毛織物、金属等を中心としており、また肥えて豊かな農牧地帯を後背地に有して畜産物、米、ぶどう酒、木材などを



サンタ・テラザの丘から望むポルト・アレグレ市と港

ポルト・アレグレ中心部地図



移出しています。

またブラジルでの国際イベントの開催地として、国内そして海外でも大きな役割を果たしています。2011年11月に、世界150都市の首長ら約850名の参加のもと、第10回世界大都市会議(10th World Congress of Metropolis)が開催されました。

同市には、サルガード・フィーリョ国際空港があり、アルゼンチン、ウルグアイからの玄関口となっています。また、園内のサンパウロやリオ及び他の都市にも直行便や経由便が多数発着しています。

陸上交通としては、バスが主で、乗り合いタクシーのようなロータソンと普通のバスの2種類あり、タクシーとともにかなり発達しています。

(3) 市民生活

市の都心部に位置するように、Pasa da Matriz(三権広場)があり、州最高裁判所、州議会



一番の繁華街アンドラーダス通り

議事堂、州庁、メトロポリタン大教会やSao Pedro劇場があります。また、ブラジルの都市公園の中では最大の面積を持つ、ファールピーリャ公園(レデンソン公園とも呼ぶ)も市の中心部にあります。その公園内には、連邦大学、現代風建築のアラウジョ・ピアナ講堂の他に動物園、池、第2次世界大戦記念碑(大門)などがあり、市民の憩いの場となっています。

東南部には、サンタテレーザの丘があり、テレビ局が林立し、ここから眺める市内及び、グアイバ河の遠望はとても美しく、市の中央から東部にかけて閑静な住宅街で、ことに日本総領事館のあるカルロス・ゴメス通り近郊は、豪華な様々な様式の住宅が見られます。

この他に、総合文化センターとして市民に親しまれているマリオ・キンターナ文化センター、リオ・グランデ・ド・スル美術館、カスチョリス歴史博物館、ノッサ・セニョーラ・ダス・ドーレス教会などがあります。

またポルト・アレグレ市は世界的サッカー選手ロナウジーニョをはじめとする多くのサッカー選手の出身地でもあり、市民の誇りになっています。

2 提携の経過

珠洲市は昭和38年5月ブラジルのリオ・グランデ・ド・スル州ペロータス市と、同市出身の在日ブラジル大使館文化担当官L・D・ビニョーレス氏の斡旋で姉妹都市提携を結びましたが、その後昭和41年5月駐日ブラジル大使ソアーレス氏とビニョーレス文化担当官夫妻が、珠洲市で開かれたビニョーレス詩碑除幕式に出席の途次金沢市を訪問し、江川助役等と会談し、同じリオグランデ・ド・スル州の州都ポルト・アレグレ市と金沢市の姉妹都市提携の申し入れを行いました。



ポルト・アレグレ市庁舎

この後、外務省中南米移住局長から金沢市長あてに昭和41年8月3日付文書をもって、両市の都市提携計画の経緯および見通しについて照会があり、同時に在ポルト・アレグレ佐藤総領事から外務大臣あて「ポルト・アレグレ市はビニョーレス文化担当官の勧めもあり、金沢市と提携することを決めている。未だ他の都市と提携したことがなく、これが実現すれば最初のものであり、両国文化交流の見地からも両市の提携を推進したいので金沢市の意向を打診してほしい」旨の依頼文書写しが送付されました。これに対し金沢市から、大勢は提携に賛成の意向であるが、市議会との関係もあり、最終的な方針はさらに詳細を打ち合わせた後決定する旨回答しました。

同年11月2日、徳田金沢市長は、ブラジル大使館にソアーレス駐日大使を訪れ、ポルト・アレグレ市長から提携の意思表示をした公文書を得たい旨の申入れを行いました。この会談に基づき、同月16日金沢市長からポルト・アレグレ市長あて親善の書簡ならびに金沢市紹介の写真帳、パンフレット等をブラジル大使館を通じてポルト・アレグレ市へ送付しました。

これに対し、昭和42年1月28日付文書をもって、外務省中南米移住局長から金沢市長あてに、在ポ

ルト・アレグレ佐藤総領事が一時帰国に際して、ポルト・アレグレ市セリオ・マルケス・フェルナンデス市長から徳田市長あての書簡が託送された旨の通知があり、パンフレット、ポスター、市章等の資料とともに、11月の徳田市長書簡に対する返書として両市の都市提携をぜひ具体化したい旨を述べたフェルナンデス市長書簡が金沢市に送付されてきました。

これに基づいて、昭和42年3月20日、金沢市議会は正式に両市の親善都市提携を議決しました。

なお、昭和42年5月26日、ポルト・アレグレ市では、金沢市議会の議決に対応して、両市姉妹都市提携に関する市条例署名式をポルト・アレグレ市庁舎において行い、フェルナンデス市長が市条例に署名、ポルト・アレグレ市側としても正式に金沢市との提携を発効させました。



三権広場の塔

6. ゲント市との姉妹都市提携

1 ゲント市の概要

(1) 沿革

ゲント市は、ベルギーの首都ブリュッセルの西約50キロ、車で30分余りの距離に位置し、ベルギーのフランドース地方の中心都市であり、東フランドル州都であるとともに、ベルギーにおいて、ブリュッセル、アントワープに次いで人口第3位の都市です。別名「花の都市」と呼ばれ、5年毎にゲント・フロラリーと呼ばれる世界的に有名な国際フラワーショー(花の展覧会)が開かれる町として知られています。また、ユネスコ創造都市ネットワークの加盟都市として音楽分野において認定を受けており、文化施策も推進しています。

ゲントの真の起源は、7世紀にさかのぼることができます。最初に人の住んだ市の中心部「核」は、ケルト語で「河の口」を意味するガンダと名付けられました。フランドース地方の開祖聖アマンドが7世紀に当地方に二つの大修道院セント・ピー

ター院(625～630AD)と聖バーフ大聖堂(630～647AD)を建立しました。ゲント市は、12世紀には既にフランドースの中心都市となり、14世紀にはアルプス以北においてパリに次いで大きな都市となりました。14世紀と15世紀に、ゲント市では中流階級が集結して多数の強力なギルド(商人団体)をつくり、きわめて強い勢力となって、フランスの支持を受けて数回にわたり、市民の権利と自由をおびやかして、カウント(伯爵)に対して、数世紀にわたり武力抵抗を行いました。

(2) 産業

シエルデ河に面したゲント港は、北海と結ぶ運河の整備によって、アントワープに次ぐベルギー第2の港湾に成長し、ヨーロッパの主要な内陸港の一つになりました。交通運輸網の整備とともに、19世紀に入ってから繊維、鉄鋼業を中心として各種産業が発展し、綿、亜麻、ジュート製品、光学機械、砂糖精糖、醸造、なめし皮などの工業があ



市内中心部にある中世のギルドハウス(商人組合)

ゲント市内地図



- ① 聖バーフ大聖堂
- ② ベルフリー（鐘楼）と繊維会館
- ③ "勝利の鐘"
- ④ 聖ニコラス教会
- ⑤ ギルド・ハウス（中世の商人組合）
- ⑥ フランドル伯居城
- ⑦ グレート・キャノン（巨砲）
- ⑧ 市庁舎
- ⑨ ゲント美術館
- ⑩ ゲント市立現代美術館
- ⑪ ロイヤル・オペラ座
- ⑫ ゲント大学
- ⑬ ゲント港
- ⑭ 花市場
- ⑮ 産業歴史博物館
- ⑯ 民俗博物館
- ⑰ 聖ミヒール橋
- ⑱ ゲント王立美術アカデミー
- ⑲ 城砦公園（ことじ灯籠）

り、近代的な産業都市としても知られています。

ベルギーの公用語は、オランダ語、フランス語及びドイツ語ですが、北部のフランダース地方は主としてオランダ語、南部のワロン地方は主としてフランス語地域で、首都ブリュッセルでは、フランス語が主流を占めており、アントワープ市は、オランダ語地域に属しています。

この町の美しさを一望のもとに見るためには、町の中心部にある聖ミヒール橋に立つのがよいといわれています。ここからの展望は、すばらしく、町全体が観光客を引きつけずにはおかない魅力に満ちています。町の北東にある岸边は、グラスレイ(“草の川岸”の意味)と呼ばれ、フランダース特有の形をした古い建物が並び、水面に影を落としています。(夜は、照明される)橋の北方には、フランドル伯居城も望まれ、東方には、聖ニコラス教会の塔、鐘楼、そして聖バーフ大聖堂の塔がそびえたっているのが望めます。聖ニコラス教会は、13世紀のゴシック建築として代表的なもので、その鐘楼は、13世紀から14世紀にかけて造られたもので、てっぺんまで登れるようになっています。

(3) 主要な名所旧跡、文化施設等

聖バーフ大聖堂、ベルフリー(鐘楼)と繊維会館、



アントワープ市庁舎

聖ニコラス教会、聖ミヒール教会、装飾美術館、フランドル伯居城、グレート・キャノン、金曜市場とヤコブ・ヴァン・アルテベルデの像、タウン・ホール、城砦公園(公園は1871年に造られたもので「花の都市」にふさわしく、ばら庭園、樹園等を有し国内で最も美しい公園の一つです)、植物園、セント・ピテルス寺院、科学歴史博物館、産業歴史博物館、アントワープ美術館、アントワープ市立現代美術館、アントワープ市立博物館、民俗博物館、アントワープ港、大学図書館

2 提携の経過

在大阪ベルギー総領事ノートン男爵の発案により、昭和45年4月14日から19日までの期間中、万国博覧会お祭り広場において「あなたと私のまつり」をテーマに「百万石まつり」とベルギーの代表的なお祭りである「オメガングまつり」とが共演し、金沢からの出演者93名とベルギーからの民族芸能グループ143名が相互交歓を通じて、国際親善を深めました。

同月15日に、万国博ベルギー館で開催されたベルギーの日のレセプションに中西知事、徳田市長、吉田商工会議所会頭らが招待され、席上、ノートン総領事から金沢とベルギーの都市との姉妹提携が提案されました。

6月20日に金沢市都市提携委員会は、総会でアントワープ市との都市提携計画を了承し、7月25日に金沢市議会運営委員会も同じく了承したので、ノートン総領事へ両市間で合意が成立するようあっせん方を依頼しました。

12月23日に総領事から11月のアントワープ市議会全体委員会で両市の提携が承認され、続いて11月30日アントワープ市の市長、市参事会が、提携関係に入る用意があることを正式に宣言した旨の通知があり



聖バーフ大聖堂

ました。

昭和46年1月13日に総領事から市長あて書簡が届き、ゲント市が金沢市の友好的な意向を大きな喜びをもって受諾したことを確認するとともに、ゲント市は姉妹都市提携の経験がないので、金沢市長からゲント市長G・バンデンダール氏に提携を発展させる方法を助言してほしい旨が伝えられました。

2月23日、市長からバンデンダール市長あて書簡を発送し、金沢・ゲント両市間に友好親善関係を樹立することは、意義深いことである旨金沢側の賛意を伝えるとともに、ノートン総領事から依頼のあった提携後の交流活動の進め方に関する助言については、最初は相互の市を紹介する写真や児童画等の交換展を行い、第2段階として人の交

流を推進して相互の理解を深め、こうした交流の中から友好を深める諸企画が自然に生まれると予想される旨の金沢市側の見解と経験をゲント市に伝えました。

ゲント市バンデンダール市長は、3月30日付の金沢市長あて書簡で両市の都市提携に合意する旨を正式に伝えるとともに、夏の提携協定の調印を行いたいと伝えてきました。

5月9日に万国博ベルギー政府代表ドフレーヌ男爵、万国博ベルギー館ホリンカー館長、在大阪ベルギー総領事ノートン男爵、ウィルズ造園技師ら一行5名が、奥卯辰山公園の県ベルギー庭園の苗木贈呈式に出席のため来沢し、提携調印手続のスケジュールについて打ち合わせを行いました。

6月10日、金沢市議会本会議で両市の親善都市提携議案が可決され、この旨を正式にゲント市長、在大阪ベルギー総領事関係者に通知しました。

10月4日、徳田市長は、中西知事とともにゲント市を公式訪問して同市の歓迎を受け、同4日、両市都市提携盟約書に調印して、正式に提携が成立しました。



ゲント市立博物館(通称STAM)

7. ナンシー市との姉妹都市提携

1 ナンシー市の概要

(1) 沿革

ナンシー市は、1153年ロレーヌ公領の首都となるまでは、フランス東部の1寒村にすぎませんでした。領主の常住と、13世紀に与えられた自治権とに裏づけられて発展し、ロレーヌの司教都市メッツやトゥール、ヴェルダンと勢いを競いました。1477年、最後のブルゴーニュ公シャルル豪胆公がこの地を攻囲しましたが、ロレーヌ公ルネ2世に敗れました。15世紀には、繁栄と華麗をきわめましたが、ナンシーのあるアルザス・ロレーヌ地方は、ライン川をはさんで隣り合う二大強国(ドイツ、フランス)によって今までに幾たびか争奪的となってきました。1648年には、30年戦争に結末をつけるためのウエストファリア条約によってルイ14世統治下のフランス領となり、普仏戦争の結果、1871年のフランクフルト条約ではドイツ領となり、第1次世界大戦には主戦場となったの

ち、ベルサイユ条約によってフランスの手にもどりました。第2次世界大戦では再びドイツ軍に占領されましたが、戦後はもとどおりフランス領に帰りました。

ナンシー地方は、ドイツ、ベルギー、ルクセンブルグと境を接し、スイスにも近く、パリの東方280kmの地点で(パリからはTGV(高速列車)で1時間30分)で、モーゼル川の支流ムルト川の河谷にあり、地理的にロレーヌ中心に位置します。また、マルヌ・ライン運河にのぞみ、パリ～ストラスブール間とメッツ～リヨン間等の鉄道が通過し、フランス国内屈指のアルザス・ロレーヌ工業地帯を形成しています。

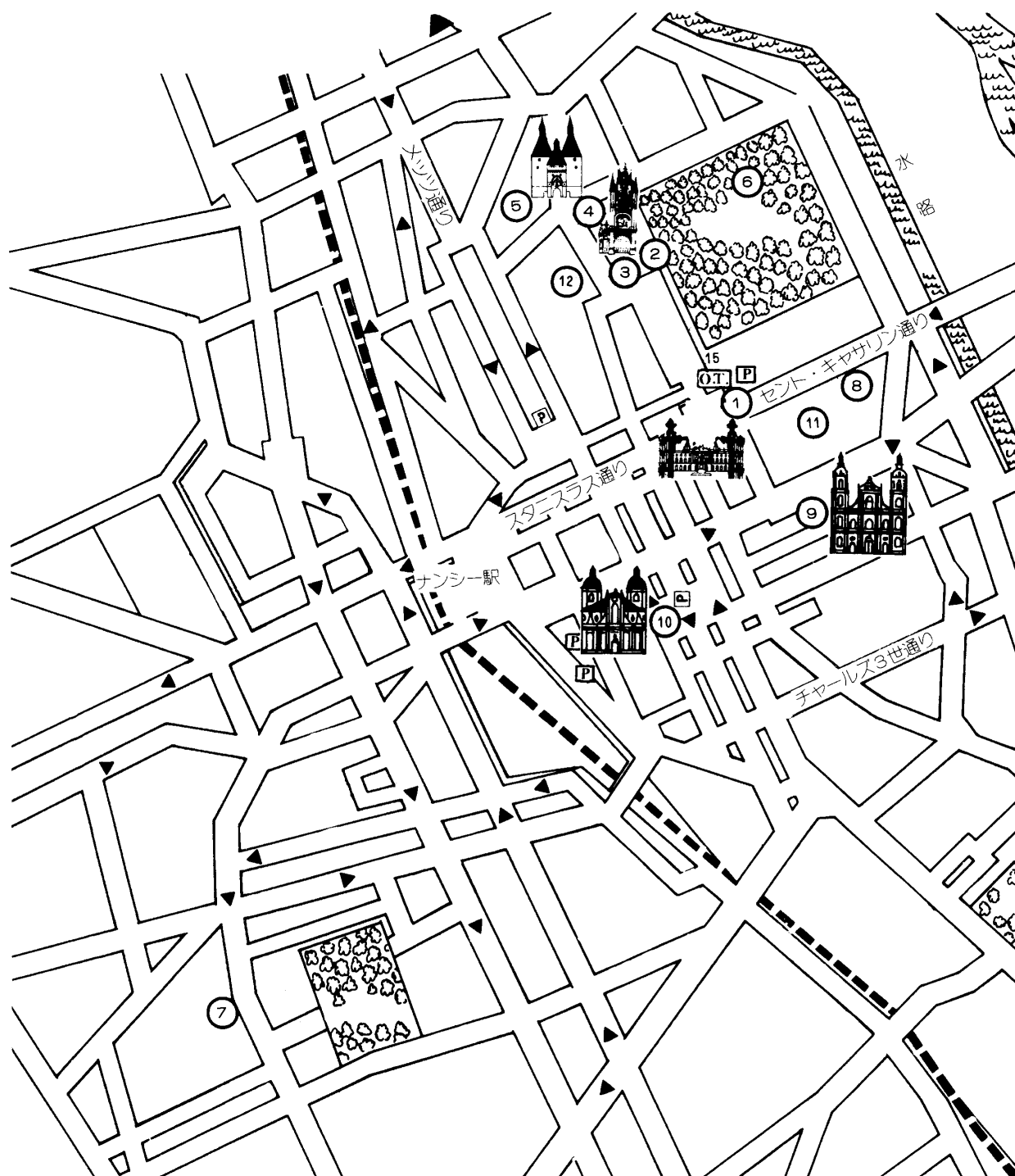
(2) 産業

ロレーヌ州の事実上の首都であるナンシー市は、人口約10万人を擁し、機械、織物、クリスタルガラス(ドーム社は世界的に有名)などの産業が発達しています。多くのサービス業や小売店があるほ



ナンシー市庁舎と世界遺産スタニスラス広場

ナンシー市内地図



- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| ① スタニスラス広場と市庁舎、"黄金の門" | ⑦ ナンシー派美術館 |
| ② カリエール広場と司令官の館 | ⑧ ゴドロン庭園とナンシー自然科学博物館・水族館 |
| ③ ロレーヌ公の館とロレーヌ歴史博物館 | ⑨ 大聖堂 |
| ④ コルドリエ教会 | ⑩ サンセバスチャン教会 |
| ⑤ クラフ門 | ⑪ アリアンス広場 |
| ⑥ ペピニエール公園 | ⑫ サン＝テーヴル教会 |

か、情報通信技術、銀行・金融・保険産業、生命科学関連産業などを支援しています。街の周辺部には製鉄関係の工場が建ち並び、東北フランスでは中心的な経済都市となっています。

(3) 教育・芸術・文化

総人口に占める学生の割合が非常に高く、学園都市であるナンシーには、グランゼコールと称されるエンジニア養成高等教育機関、文系・理系総合大学、建築学校、芸術学校や森林学校が統合されたロレーヌ大学があり、52,000人以上の学生を迎えている。

また、ナンシーは、19世紀末のヨーロッパ各都市を彩った芸術運動アール・ヌーヴォー発祥の地としても知られています。ガラス工芸作家のエミール・ガレやドーム兄弟、高級家具師のレイ・マジョレルらが活躍し、1890年代にはナンシー派

が結成されました。ナンシー派美術館では、ナンシー派を中心とするアール・ヌーヴォー作品が展示されています。また、美術館だけではなく、街中でも優美なカーブを見せる窓枠や植物模様の鉄骨細工の家など、アール・ヌーヴォー建築を楽しむことができます。このほか、ナンシー市は国際的な音楽祭の開催や国立バレエ団もあり、芸術都市として発展しています。

ナンシー市では、1971年にナンシー仏日協会(初代会長 ベルナル・ピエールソン博士)が発足しています。同協会は、日本語講座や折紙講習会、各種講演会、1974年に発足した金沢日仏協会(初代会長 徳田与吉郎市長)との相互訪問を行うなど、積極的に日本との友好交流を図っています。

2 提携の経過

国際親善都市連盟の仲介で、昭和46年8月11日に日仏会館学長アレクシス・ドランデール氏(ナンシー大学医学部教授)が東京で徳田市長と会い、ナンシー市マルセル・マルタン市長の姉妹都市提携の提案および市長のナンシー市訪問を要望する書簡を手渡し、両市の提携の申入れを行いました。

同月20日に開催された金沢市都市提携委員会の理事会は、ナンシー市との提携に賛成の態度を示し、市長訪欧の際には、ナンシー市へも訪問するよう要望しました。

9月15日から19日まで上記ドランデール教授夫妻、ジャック・ラング氏(ナンシー大学法学部教授、ナンシー国際演劇祭主宰者)および在日フランス大使館参事官アンドレ・ブリュネ氏の一行4名が来沢し、市長表敬の際、再び、提携の促進とナンシー訪問を要請するとともに、ラング氏は、1973年(昭和48年)に国際演劇祭を金沢で開催したい旨の希望を市長に伝えました。また一行は、



スタニラス広場の四角を飾る黄金の門



金沢通り

県庁、金沢大学等を訪れ、同様に交流推進を申し入れました。

10月6日、徳田市長は、中西知事とともに訪欧の途次、ナンシー市を訪問し、マルセル・マルタン市長と会談、記念品交換、金沢市紹介カラー写真パンフレット贈呈等を行い、両市の理解と親睦を深めました。この際、ナンシー市側は、重ねて姉妹提携に対する熱意ある態度を示しましたが、徳田市長は、ゲント市と提携した直後なので、回答を保留しました。

12月6日、ナンシー日仏協会ベルナール・ピエールソン会長が来沢し、市長訪問、市内見学等を通じて親睦を深めました。同月、ナンシー市長から同市を紹介するフィルムメッセージ等を受領しました。

昭和47年2月にナンシー市長から姉妹提携促進と交流事業計画について来信があり、5月26日の本市都市提携委員会総会では、ナンシー市との姉妹提携が承認されました。

9月4日に油谷金沢市都市提携委員会会長がナ

ンシー市を親善訪問し、岡市長のメッセージをナンシー市長に伝達しました。この際、マルタン市長は、11月に金沢を公式訪問し、両市提携の調印を行いたい旨を伝えました。

9月30日、金沢市議会がナンシー市との親善都市提携議案を可決しました。

11月4日から7日までマルセル・マルタン市長、ジェラルド・キュロー第2市長補佐官、アンドレ・ルフェブル市書記官、在日フランス大使館ブリュネ参事官の一行が提携調印のため本市を公式訪問しました。

同月5日、両市長が持ち寄った案をもとに提携盟約書を作成し、翌6日、市長室で両市長が7項目の交流計画からなる「姉妹都市盟約書案」を包括する「宣言」(提携協定書)に署名調印しました。案としたのは、この後ナンシー市議会の承認の後に正式に発効するという含みを残したためです。

昭和48年10月10日から14日にかけて、マルタン市長を団長とするナンシー市親善使節団一行53名が来沢しました。この際、前年11月マルタン市長来沢の際、結ばれた「宣言」に包括されていた「姉妹都市盟約書案」を正式に発効させるため、両市長が改めて正式に「金沢・ナンシー姉妹都市盟約書」に署名しました。

8. 蘇州市との姉妹都市提携

1 蘇州市の概要

(1) 沿革

蘇州市は、中国長江デルタ平野の真中にあり、百くから3つの大きな特色を持つ都市として繁栄しています。

呉国の王、闔閭^{こうりょ}が紀元前514年の春秋時代に、蘇州の地に城を築き始め、「呉」国と称したことに始まります。

蘇州と改められたのは西暦589年隋の文帝時代で、如蘇山という山の名からとったと言われていいます。

西暦1662年康熙元年にほぼ現在の蘇州市の形態となり、太平天国時代に蘇福省の省都にもなり、その後、江蘇省の直轄市となり現在に至っています。

宋代には“蘇湖熟天足”（蘇州と湖州の農産物が実れば、国中を潤せる）と称せられたほどの「魚米の里」であり、マルコ・ポーロは、1280年頃、この地に滞在し、絹織物の産地として発展した往時

の様子を東方見聞録に記しているほど、古くから「シルクの産地」として有名です。また、風光明媚な太湖のほとりに位置し、「庭園の町」と呼ばれるほど多くの庭園があり、国内外から観光客が訪れます。さらに、蘇州市は、長い歴史と古い文化のある有名な都市で、「上有天堂、下有蘇杭（天には極楽が有り、地には蘇州・杭州が有る）」と言われる景勝地であり、近年は沿海経済開発区としてめざましい発展を遂げ、二面性を持った都市として大きく変わりつつあります。

現在、本市をはじめ、大阪府池田市、アメリカポートランド市、カナダヴィクトリア市、イタリアベニス市、ルーマニアトルチャ県及び韓国全州市等と姉妹都市提携をしています。

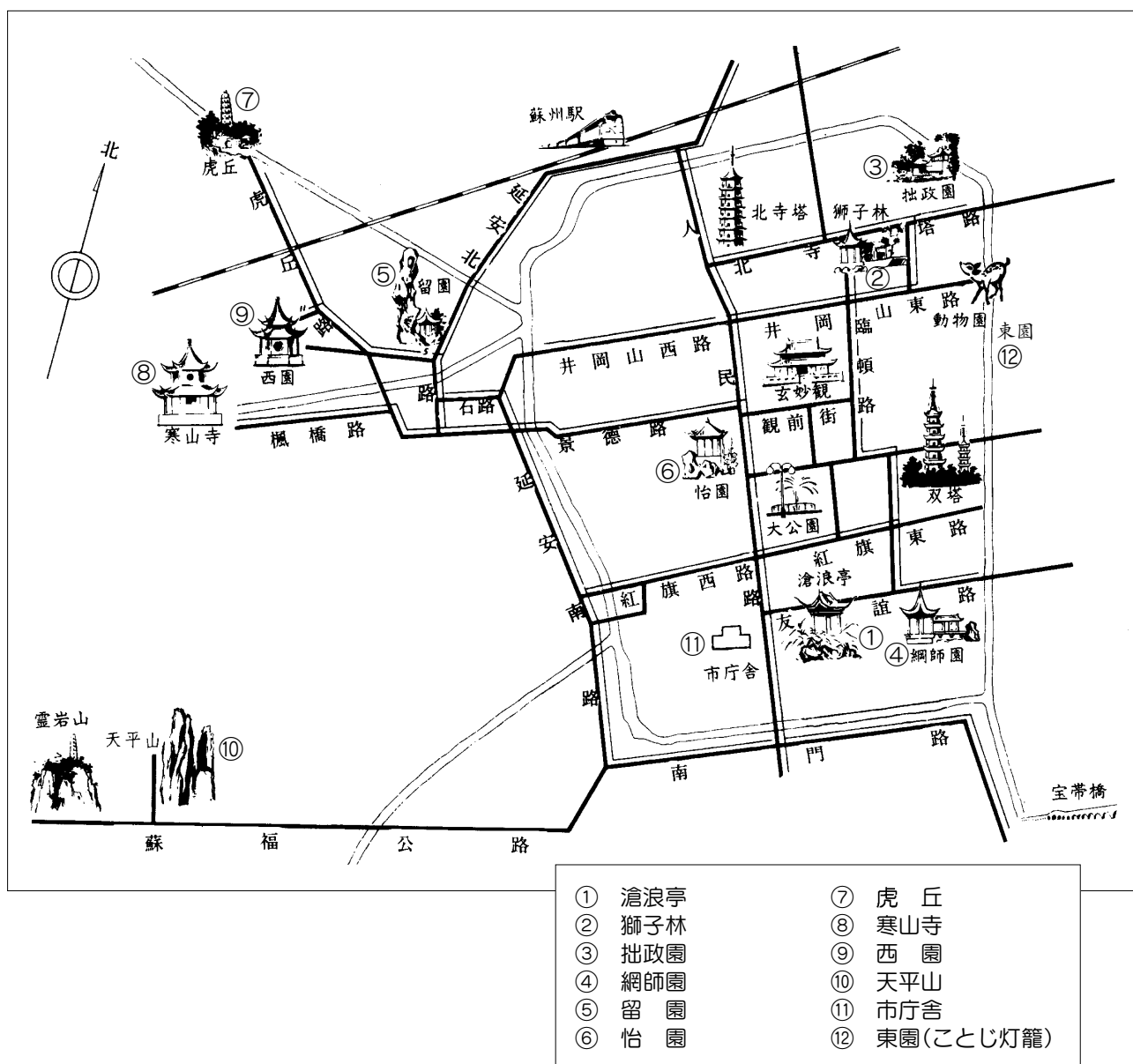
(2) 産業・伝統工芸

蘇州の工芸美術品の歴史は古く、腕の良い職人の手によるもので、その精緻さ、きめ細かさ、優雅さと上品さで有名です。



留園の太湖石

蘇州市内地図



その代表作として、刺繍は中国「四大刺繍」のナンバーワンと言われ、ほかにミニ彫刻を施した扇子、彫刻家具など、これらの上等品は、プレゼントとして外国に贈呈されています。

自然環境に恵まれ、昔から「錦綉江南、魚米の里」といわれるほど、豊かな稲、小麦、菜種のほか、桑田づくり、養蚕、淡水養魚、河貝の真珠養殖、果物と野菜の栽培、家畜業なども盛んです。

新区は、工業団地として1986年6月に国の許可があり、以来、その基盤整備も順調に行われ、特に、河西新区はハイテク産業区で、海外の大規模企業が進出しています。

(3) 文 化

蘇州市は、中国では北京、西安に次ぐ文化財の宝庫で、大型博物館のほかに、特徴を持った専門



寒山寺鐘樓

の博物館も数多く有り、呉文化の歴史の変遷をたどることができます。

昆劇は、中国劇の元祖、「劇の王」と称され、昆山地方に発生し、ユネスコの世界無形遺産に指定されています。そのほか「評弾」、「蘇劇」など古いものを今に残しています。

書画芸術も歴史は古く、流派も多いほか、南北朝(A.D420~589)清時代(A.D1644~1911)までの中国の絵書の歴史に1200人も名を馳せ、そのレベルも高く、現在ではプロ・アマ問わず、中国で相当の地位とかなりの影響を与えています。

2 提携の経過

昭和47年9月29日、北京において日中共同声明が発表され、また、昭和53年8月12日に日中平和友好条約が北京において締結されました。

以後、両国間の交流が活発になり、本市においても昭和53年11月徳田石川県日中友好協会会長が訪中し、廖承志中日友好協会会長と友好都市提携について話し合いました。

昭和54年3月、徳田県日中友好協会会長は、再び訪中し、24日に北京市の中日友好協会本部を訪れ、正式に金沢市が蘇州市と姉妹都市提携を結びたい旨を伝えました。31日には蘇州市を訪問し、蘇州市革命委員会の潘林需副主任ら幹部に会い、金沢市長のメッセージを手渡すとともに、正式に姉妹都市提携を結びたい旨を申し入れました。

同年5月27日から29日まで廖承志中日友好協会会長を団長とする「中日友好の船」(600名)が富山港に入港したのを機会に、金沢市は蘇州市民を含む1班20名を招待し、さらに江川市長、中西知事が富山港で廖団長に会い、金沢市と蘇州市の友好都市の実現を要請しました。

続いて、同年8月から12月まで石川県婦人の翼



街の真中に立つ北寺塔

訪問団をはじめ4団体が次々に蘇州市を訪問し、市長親書を手渡して両市の提携の早期実現を要請しました。ところが、この時既に金沢市の他に池田市(大阪府)を含む7市も蘇州市にプロポーズしており、樂觀視できない状況にありました。

このような厳しい状況下で、一日も早く縁組を実現するため、昭和55年2月6日、蘇州・金沢友好都市提携促進委員会を設立し、会長に徳田県日中友好協会長を選出し、同氏はさっそく日中友好協会本部と在日中国大使館を訪問して両市提携の協力を依頼しました。

同年4月、同促進委員会の徳田会長と室井副会長が訪中、中日友好協会本部、江蘇省、蘇州市を訪れ、改めて早期実現を要請しましたが、この時、蘇州市側から、蘇州市の友好代表団を金沢市が招待してほしいとの要望を受け、縁組実現は九分九

厘間違いないとの感触を得ました。

同年6月27日、汪良江蘇省人民政府外事弁公室主任を団長とする中国江蘇省人民政府代表団の来沢を機会に、両市の縁組への協力を強く要請し、さらに、同年8月11日、杉山県副知事を団長とする「石川婦人の翼・青年代表団」が蘇州市を訪れた際に、両市の縁組が実現されるだろうとの非公式な見解を得ました。

また、同年11月8日「第3次日中友好石川県民の翼」(団長宮地義雄石川県議会議員、副団長尾戸嘉博金沢市助役のほか、北、宇野、松本、鳥居の4名の金沢市議会議員が同行)が蘇州市を訪問した際、「両市の縁組は、国務院の決裁待ちで、来春には間違いなく調印できよう」との回答を得ました。

昭和56年2月2日、蘇州市から電話で、「中国政府は金沢市と池田市が蘇州市と縁組を結ぶことを正式に許可した。」と伝えてきました。同月9日、正式の許可文書が届き、続いて、同月14日から19日まで山田金沢市総務部長を団長とする3名の先遣隊が蘇州市に赴き、調印日、調印場所、議定書等について協議しました。

昭和56年6月13日午前金沢市庁舎内において、念願の両市の調印式が厳かにとり行われ、江川金沢市長と方蘇州市長が議定書に署名し、末永い友好交流を誓い合いました。



開発の進む河西新区

9. 全州市との姉妹都市提携

1 全州(ジョンジュ)市の概要

(1) 沿革

ソウルから約200kmの距離にある、全羅北道の道庁所在地で、政治、経済、教育の中心地です。東・南・西の三方を山に囲まれた平坦な盆地を形成しています。

全州は、かつて完山州(ワンサンジュ)と呼ばれていましたが、新羅時代の757年に、全州に改名し現在に至っています。従って、全州は千年以上の歴史を誇ります。

900年には、甄萱(キョン・フォン)が建てた後百済の都を全州としました。韓国で一国の首都となった都市は6都市しかないことを考えると、全州が都としての条件を合わせ持った、その名のとおり完全な都市であるといえます。

また、500年の繁栄を誇った李氏朝鮮を打ち立てた李成桂(イ・ソンゲ)の祖先が全州で代々暮らしていたため、李氏朝鮮の発祥の地と称されています。

ます。李氏朝鮮時代には、全羅道の全地域と済州島まで管理する全羅道の実質的な都であり、行政の中心地として大きな役割を果たしてきた歴史的な都市です。

1949年に市に昇格、2002年にはFIFAワールドカップの開催地になっています。

(2) 産業・伝統工芸

全州では、全州韓紙、合竹扇(ハプチュクソン)などの伝統工芸が盛んです。また、食の里としても知られ、全州ピビンパは非常に有名で、2012年に食分野でユネスコの創造都市に登録されました。観光事業にも力を入れており韓屋村(韓国式家屋保存地区)には、毎年多くの観光客が押し寄せてきています。

近年は、このような全州市が誇る韓紙、韓食、韓屋などの伝統文化を産業化、生活化、世界化させて雇用や付加価値を創出させようとする「韓スタイル事業」に積極的に取り組んでいます。一方で、



豊南門(ブンナムムン)

全州市内地図



- ① 全州市庁
- ② 全州韓屋村
- ③ 豊南門
- ④ コリアベラホテル

炭素繊維産業に代表される「部品素材産業」の拠点地となることを目指しており、先端技術と伝統が調和する経済を追及しています。

また、全州が持つ魅力と特性を産業に繋げる「映画映像産業」、「生物生命産業」なども育成し、持続可能な成長のための21世紀新産業都市への変貌を図っています。

(3) 文 化

千年の歴史都市全州には、国指定宝物の豊南門(ブンナムムン)や韓屋村などの歴史遺産を数多く残しており、韓国の味と粹、品格と値打ちが息づいている都市と認識されています。韓紙、韓食、韓国伝統音楽など韓国文化の伝統が創造的に継承



パンソリの様子

されており、「もっとも韓国的な都市」、「全州に行けば、韓国を知ることができる」と評価されています。

また、ユネスコの世界無形遺産に指定されているパンソリが非常に盛んな都市でもあります。

伝統文化以外にも、全州市立交響楽団を所有するなどして、文化活動の発展に取り組んでいます。

2 提携の経過

環日本海交流を推進する本市は、これまで中国・蘇州市、ロシア・イルクーツク市と行政、教育、経済、文化学術の分野で豊かな交流を育んできました。そして、かねてより同じ隣国である韓国で交流先を探していたところ、崔元旼(チェ・ウオンウ)・在新潟大韓民国総領事をはじめとする韓国知識人から、石川県とすでに交流がある全羅北道の道都であり、政治、経済、教育の中心でもある歴史都市全州市がふさわしいとのアドバイスがありました。全州市が、平成8年に蘇州市と姉妹都市提携していたことも好条件として働きました。

日韓国民交流年であり、FIFAワールドカップの日韓共同開催年であった平成14年の1月23日に、石川県食品協会全州市訪問団に同行した近藤義昭・金沢市経済部長が、全熙宰(ジョン・ヒジェ)・全州市副市長と面会し、全州市との姉妹都市交流を希望する旨が記載された全州市長あての金沢市長親書を手渡しました。

全州市の方でも、丁度、日本での姉妹都市を探しているうちに金沢市に行きついていたので、金沢市との交流に大きな関心を寄せていました。そこで、金沢の意向を受けてインターネット上で全州市民に姉妹都市提携について打診したところ大きな反発もなかったため、同年2月7日に、全州市から姉妹提携意向に同意するとともに、姉妹都

市提携のための実務協議のため全州市を訪問してほしい旨の書面での依頼がありました。

これを受けて、2月14日に原田淳志・金沢市助役が特使として全州市を訪問し、金完柱(キム・ワンジュ)・全州市長を表敬訪問するとともに、担当者同士で姉妹都市提携に向けての具体的な協議をしました。

2月21日に全州市の姉妹都市提携について記者発表を行いました。

3月20日、全州市との姉妹都市提携に関する議案が、第一回金沢市議会で満場一致で可決。全州市議会でも3月に姉妹都市提携に関する議案が可決されました。また、4月に、韓国行政自治部が両市の姉妹都市提携を承認しました。

4月29日～5月2日に金完柱(キム・ワンジュ)・全州市長、李元植(イ・ウォンシク)・全州市議会議長をはじめとする全州市代表団が本市を訪問、4月30日、ホテル日航金沢にて金完柱・全州市長と山出保・金沢市長の間で、「金沢市と全州市の友好交流に関する合意書」調印式が執り行われ、正式な姉妹都市となるに至りました。



韓屋村の様子

3 市議会間の交流

平成16年5月12日、安達前金沢市議会議長を団長として、金沢市議会代表団が全州市議会を訪問し、朴鍾允(パク・チョンユン)全州市議会議長との間で「金沢市議会と全州市議会友好交流に関する協定書」調印式が執り行われました。

以来、両市議会の間で毎年相互訪問を行い、友好交流を深めています。

10. 大連市との友好交流都市提携

1 大連市の概要

(1) 沿 革

遼東半島最南端に位置し、約120年前は地方の小さな一漁村にすぎませんでしたが、戦前のロシア人や日本人による建設により開発が始まりました。1984年には、中国東北部で唯一、経済開放都市の指定を受けて近代化が始まり、現在は中国東北部を代表する港湾工業都市で、貿易金融の中心都市です。総延長1,900kmに及ぶ美しい海岸線と起伏に富んだ地形に恵まれた風光明媚で活力にあふれ、「ロマンの都」、「北方の真珠」とも称せられます。

(2) 産業・文化

船舶・鉄道車両などの工業分野で大きな発展を遂げるとともに、郊外に位置する「経済技術開発区」を中心に、3,300社以上の日系企業が進出しており、北東アジアにおける重要な国際航運セン

ターと国際都市の建設に邁進しています。

1988年より「大連国際ファッション祭り」を開催しているように、「国際ファッション都市・大連」をイメージした戦略でも知られます。

また、中国サッカー・スーパーリーグにおいて過去に何度も優勝している大連実徳の本拠地でもあり、サッカーが非常に盛んな都市としても知られています。

(3) 教 育

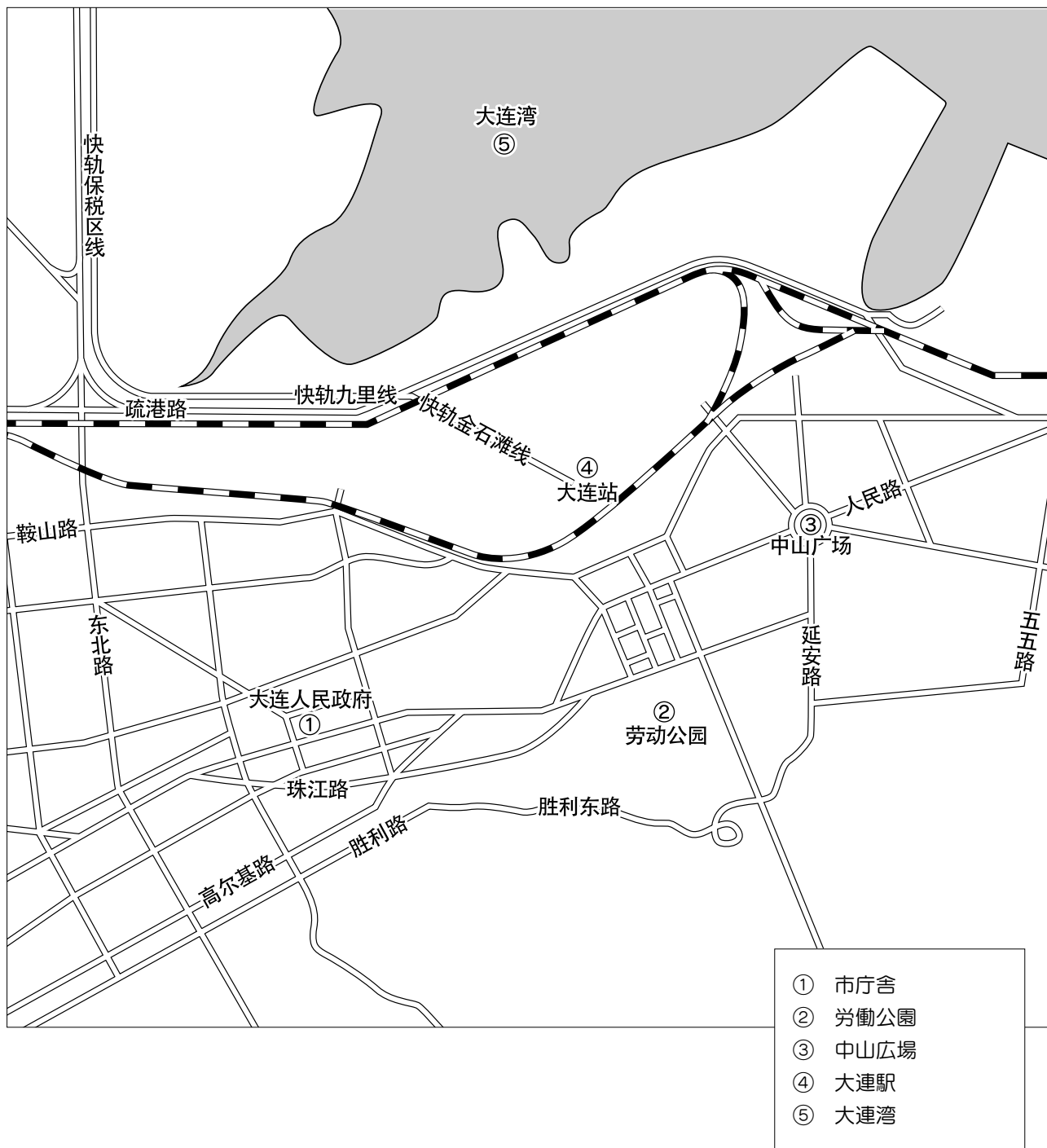
大連市には、普通大学が全部で31校、中等職業学校が102校、普通高校が79校、9年制の義務教育の学校が1006校、幼稚園が1369か所あります。各級各種学校(幼稚園を含む)の在校生は107.5万人です。

大連市の入学前3歳児の入園率は93.4%に達し、小学校の学齢人口の入学率は99.7%、中学校の学齢人口の入学率は99.9%、高校教育の入学率は97%です。



大連市全景

大連市内地図



2 提携の経過

大連市との交流は平成10年8月、大連において、古賀克己氏(現石川県日中友好協会会長)と趙亜平・大連市立大連大学学長との民間交流が医療・健康・福祉分野において始まったことがきっかけとなりました。

平成11年11月には、趙亜平学長が金沢市役所を表敬訪問しています。この後、本市と大連市との交流は民間主導でますます拡大しましたが、山出保・金沢市長や石原多賀子・金沢市教育長の大連大学での講演等同大学との交流、平成16年から始まった教職員の相互派遣、姉妹校締結等主に教育分野での交流が中心でした。

こうした中で、平成17年10月に山出保・金沢市長と南部泰昭・金沢市議会議長が夏徳仁・大連市長を表敬訪問した際に翌年10月本市で開かれる「ファッションウィーク」に夏市長を招へいしました。



港湾広場

これを受け、日本各地で経済投資セミナーや経済交流会、スポーツ大会等を通して大連市を紹介するイベントである「大連ウィーク」に出席するため来日していた夏徳仁・大連市長が平成18年11月24日に来沢しました。金沢市庁舎において、両市長が「両市の友好交流と協力に関する合意書」に調印して正式に友好交流都市提携を結ぶに至りました。これは、両市長の署名はあるものの、市議会による議決を経ていない点で、姉妹都市提携とは異なります。



国際ファッション祭



労働公園

11. 姉妹都市・友好交流都市では何て言うの？

〈言葉〉 ①おはよう ②こんにちは ③ようこそ ④おやすみ ⑤さよなら ⑥乾杯 ⑦ありがとう

バファロ (米国)	①Good mornig グッド モーニング ②Good afternoon グッド アフタヌーン	③Welcome to— ウェルカム トゥー ④Good night グッド ナイト	⑤Good-bye グッド バイ ⑥Cheers! チアーズ	⑦Thank you サンキュー
イルクーツク (ロシア)	①Доброе утро ドーブラエ ウートラ ②Здравствуй ズドラस्तヴィーチェ	③Добро пожаловать ダブロー パジャーラバチ ④Спокойной ночи スパコーイナイ ノーチ	⑤До свиданья ダスビダーニャ ⑥Тост トースト	⑦Спасибо スパシーバ
ポルト・アレグレ (ブラジル)	①Bom dia ボン ジーア ②Boa tarde ボア タルジ	③Benm-vindo ベン ヴィンド ④Boa noite ボア ノイチ	⑤Até logo アテ ロゴ ⑥Saúde サウージ	⑦Obriga da(女) オブリガーダ Obriga do(男) オブリガード
セント (ベルギー)	①Goede morgen グード モルヘン ②Goede namiddag グード ナミダーク	③Welkom ウエルコム ④Goeden nacht グーデン ナハト	⑤Tot ziens トット ツィーエンス ⑥Gezondheid ゲゾンドヘイト	⑦Dank u ダンク・ユー
ナンシー (フランス)	①Bon jour ボンジュール ②Bon jour ボンジュール	③Soyez bienvenu (s, e, es) ソワイエ ビアンブニュ ④Bonne nuit ボン ニュイ	⑤Au revoir オウ ルボワール ⑥A votre santé ア ヴォットル サンテ	⑦Merci メルシー
蘇州 大連 (中国)	①您 早 ニイン ツアオ ②您 好 ニイン ハオ	③欢 迎 ホアン イン ④晚 安 ワン アン	⑤再 見 ツアイ チェン ⑥干 杯 ガン ベイ	⑦謝 々 シェ シェ
全州 (韓国)	①안녕하세요 アンニョンハセヨ ②안녕하세요 アンニョンハセヨ	③환영합니다 ファニョンハムニダ ④안녕히 주무세요 アンニョンヒ チュムセヨ	⑤안녕히 가세요(その場に残る人が立ち去る人に対して) アンニョンヒ ガセヨ 안녕히 계세요(立ち去る人がその場に残る人に対して) アンニョンヒ ゲセヨ ⑥건배 コンベ	⑦감사합니다 カムサハムニダ

12. 資 料

姉妹都市・友好交流都市と県内各団体の交流

(1) 市町村

	交 流 都 市	提携年月日	内 容	備 考
内 灘 町	呉江市	1993.10. 7	姉妹提携	蘇 州 市
七 尾 市	大連市金州区	1986. 4 .13	姉妹提携	大 連 市

(2) 学校・その他の機関

	交 流 先	提携年月日	内 容	備 考
明 成 小 学 校	実験小学校	2004. 6 .29	姉妹校提携	大 連 市
北 鳴 中 学 校	第十中学校	1993. 7 .26	姉妹校提携	蘇 州 市
城 南 中 学 校	中山区実験中学校	2004.10.19	姉妹校提携	大 連 市
市立工業高等学校	蘇州高等職業技術学校(旧高級工業学校)	1989. 4 .17	姉妹校提携	蘇 州 市
	全州工業高等学校		教員・学生同士の交流等	全 州 市
	大連市技師学院	2014. 7 . 1	教育友好交流に関する合意書	大 連 市
金沢海みらい図書館	蘇州市図書館	2013.12.19	姉妹提携	蘇 州 市
教育プラザ富樫	大連教育学院	2011. 2 .12	教育友好交流合意書	大 連 市
県立工業高等学校	ケイモアイースト校	1987. 9	姉妹校提携	バッファロー市
県立金沢錦丘高等学校	全州女子高等学校	2007. 7 .17	姉妹校提携	全 州 市
金沢美術工芸大学	ニューヨーク州立大学バッファロー校	2012. 7 .10	大学間交流協定提携	バッファロー市
	グント王立美術アカデミー	2008.10.23	姉妹校提携	ゲ ン ト 市
	ナンシー国立高等美術学校	2012. 6 .19	大学間交流協定提携	ナ ン シ ー 市
金 沢 大 学	ニューヨーク州立大学バッファロー校	1974. 6 .12	大学間交流協定提携	バッファロー市
	ロレーヌ大学 〔旧ナンシー第一大学〕 〔旧ナンシー第二大学〕	1976. 9 .21	〃	ナ ン シ ー 市
		1976. 9 .21	〃	〃
	イルクーツク国民経済大学	1990.12.17	学部間交流協定提携	イルクーツク市
	国立イルクーツク大学	1998. 3 .16	部局間交流協定	〃
	蘇州大学	1997. 1 .22	姉妹校提携	蘇 州 市
	大連大学	2001. 3 . 8	〃	大 連 市
	大連理工大学	2003.10.21	〃	〃
	グント大学	2009. 7 .21	〃	ゲ ン ト 市
金沢大学医薬保健研究域医学類	全北国立大学医学部	2007.11.16	金沢大学大学院医学系研究科・全北国立大学医学部との学術交流に関する協定(部局間友好協定)	全 州 市
北 陸 大 学	蘇州大学	1992. 7 .18	姉妹校提携	蘇 州 市
	遼寧師範大学	2001. 5 .19	〃	大 連 市
	大連外国語学院	2001. 5 .20	〃	〃
	大連大学	2003. 1 .23	〃	大 連 市
	大連民族学院	2011. 6 .14	〃	〃

	交 流 先	提携年月日	内 容	備 考
金 沢 星 稜 大 学	東北財経大学	1999. 4 . 13	姉妹校提携	大 連 市
	蘇州大学	2001. 2 . 21	〃	蘇 州 市
	イルクーツク国立大学	2001. 9 . 2	姉妹校協定	イルクーツク市
	大連民族学院	2006.10.24	教育・学科研究協定	大 連 市
	大連工業大学	2008. 1 . 18	学術交流協定	〃
金 沢 学 院 大 学	大連理工大学管理学院	2001. 1 . 8	姉妹校提携	大 連 市
	大連理工大学人文学院	2001. 1 . 8	〃	〃
石 川 県 立 大 学	大連大学	2005.10.13	姉妹校提携	大 連 市
	大連工業大学	2014. 7 . 3	友好交流協定	〃
金城大学短期大学部(金城学園)	蘇州市職業大学	1999. 9 . 9	姉妹校提携	蘇 州 市
金 沢 工 業 大 学	ナンシー国立高等建築学校	2013. 9 . 12	大学間協力協定	ナ ン シ ー 市
北陸先端科学技術大学院大学	大連理工大学	1999.11. 4	学術交流協定	大 連 市
	大連大学	2005. 4 . 4	〃	〃
	大連民族大学	2006. 6 . 28	〃	〃
	大連工業大学	2008. 1 . 17	〃	〃
	大連海事大学	2008. 5 . 21	〃	〃
県立総合看護専門学校	ナンシー大学付属病院リュノア看護学校	1996. 4 . 29	姉妹校提携	ナ ン シ ー 市
石 川 高 専	大連職業技術学院	2009. 7	学術交流協定	大 連 市
	大連工業大学	2012. 6 . 27	学術交流協定	〃
県立歴史博物館	国立全州博物館	1991. 1 . 18	姉妹提携	全 州 市
石川県労働者福祉協議会	蘇州市总工会		相互訪問等	蘇 州 市
金沢市社会福祉協議会	全州市社会福祉協議会		相互訪問等	全 州 市
金 沢 市 医 師 会	ナンシー市医師会	1990. 5 . 7	姉妹医師会提携	ナ ン シ ー 市
金沢市柔道協会	全州市柔道会	2006. 5 . 1	姉妹提携	全 州 市
金沢市サッカー協会	全州市サッカー協会	2002.11.17	交流協力協定書	全 州 市
北 水 会	蘇州美術学院		相互交流	蘇 州 市
	研習会		相互出品等	全 州 市
北 國 新 聞 社	レスト・レピュブリカン	1989. 5	姉妹提携	ナ ン シ ー 市
	蘇州日報社	1992.12. 1	〃	蘇 州 市
テ レ ビ 金 沢	蘇州電視台	1992. 9 . 14	姉妹提携	蘇 州 市
	全州放送	2002.10.24	姉妹提携	全 州 市
北 陸 放 送	蘇州人民広播電台	1995. 4 . 26	友好協定	蘇 州 市
	大連広播電視台	2012. 3 . 22	〃	大 連 市
市内13ライオンズクラブ	サン・ジョアン・ナベガンテス・ライオンズクラブ	1996. 2	情報交換	バルト・アレグレ市
金沢香林坊ロータリークラブ	バッファロー・サンライズ・ロータリークラブ	1997. 4 . 22	姉妹提携	バッファロー市
金沢青年会議所	蘇州市青年連合会	2005. 6 . 20	友好締結	蘇 州 市
N H K	全州韓国放送公社全州放送総局	2012. 8 . 8	協力についての覚書	全 州 市

姉妹都市概要

平成 8 年 3 月 初版発行
平成24年 3 月 第 2 版発行
平成27年 3 月 第 3 版発行

編集・発行 金沢市姉妹都市交流委員会

金沢市広坂1-1-1 〒920-8577

TEL076-220-2075

金沢市市長公室国際交流課 内

